

MINSHIN Press

号外

2017年 民進党代表選挙 選挙公報

民進党代表選挙管理委員会

8月21日(月)告示 9月1日(金)臨時党大会

民進党 民進プレス編集部
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1
電話：03-3595-9988 (代表)
メール：press@minshin.or.jp
URL：https://www.minshin.or.jp

民進党代表選挙

代表選挙管理委員会の公告、各候補の推薦人名簿などの各種情報は、民進党ウェブサイトにてまとめてあります。



前原 誠司 候補



枝野 幸男 候補

代表選候補者討論会 (予定)

日付	開始時刻	都道府県	市・区	候補者討論会会場
8/22 (火)	18:30	新潟	新潟市	ANA クラウンプラザホテル新潟
8/23 (水)	17:30	青森	弘前市	アートホテル弘前シティ
8/24 (木)	15:15	愛媛	新居浜市	リーガロイヤルホテル新居浜
8/25 (金)	18:00	北海道	札幌市	札幌グランドホテル
8/26 (土)	10:30	兵庫	神戸市	ラッセホール
	16:00	三重	四日市市	四日市都ホテル
8/27 (日)	14:00	宮崎	宮崎市	シーガイアコンベンションセンター
8/28 (月)	18:00	東京	港区	東京プリンスホテル

2〜3面に候補者の政見を掲載

立候補者は2人 党員・サポーターの郵便投票を実施

民進党の代表選挙が21日告示され、前原誠司、枝野幸男の各氏が立候補した。選挙運動期間は1日までの12日間。新代表は1日の臨時党大会で選出される。党員・サポーター、自治体議員は郵便投票。国会議員、国政選挙公認候補予定者は臨時党大会の会場で投票する。

2017 臨時党大会 (党代表を選出)

開催日時・会場

①日時 2017年9月1日(金)
午後1時開会

②会場 東京プリンスホテル 鳳凰の間
東京都港区芝公園3-3-1

※インターネットでライブ中継を予定



あらゆる生活者の不安を解消する

「安心」の糸をつむいで「尊厳」の旗を立て、「分断」と「自己責任」の社会を乗り越える。



前原 誠司
まえばらせいじ
民進党 代表候補

民進党代表選に臨む決意

私は、改めてこのたびの民進党代表選に立候補させて頂くことを決意いたしました。

この一年、政権の緩みともいえる事態が噴出し、内閣の支持が低下する一方で、野党第一党たる民進党への支持にも広がりが見られず、低迷を続けております。

政権批判の強力な受け皿たる野党が存在しない、政権交代可能な政党が存在しない今の状況は、正しく日本の民主主義の危機と言わざるを得ません。私は、このような危機感の上に、改めて党再建の先頭に立たせて頂きたい。強い決意で立候補させて頂きます。

昨年、代表選におきましては、皆様にとにかくたならぬ力添えをいただきましたが、私の力不足で結果につなげることが出来ませんでした。

しかし、その際掲げた新たな政策理念「All for All」(みんながみんなのため)には、その後広がりを見せ、党の「尊厳ある生活保障総合調査会」の責任者として、この間も絶え間なく議論を深めて参りました。

この代表選を通じて、私は将来の社会像を示し、政策の軸を立て、党の目指すべき方向性を明らかにします。

今一度、野党態勢を構築し、政策論議、国会運営、選挙対策等において、我が党の主体性と主導権を確立します。

公認内定者の支援拡充、疲弊した地方組織のたて直し、自治体議員の皆様にとって風通しの良い党運営を実現し、地域から信頼され、選挙に勝てる体制作りを進めます。

これまで二十四年間、国政の場において経験させて頂いた全てを懸け、この度の代表選に臨ませていただく覚悟です。

どうか皆様、私、前原誠司にお力をお貸しください。

皆様の力強いご支援とご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。決意のご挨拶とさせていただきます。

前原 誠司

前原誠司 政権公約

危機的な状況の中、党再建の先頭に立ち、政権交代可能な政治をつくる

基本姿勢

- 野党第一党の責任として、徹底して長期政権の政治や行政のゆがみを正す。
- All for All の理念のもと「自己責任社会」と決別し、自由、共生、未来への責任を旨とした将来の社会像(国民の選択肢)を明確に示す。
- 野党体制を構築し、国民に期待され、信頼される執行部をつくる。政策論議や国会運営、選挙対策等において、我が党の主体性と主導権を確立する。
- 民進党の掲げる理念・政策の旗のもと、あらゆる勢力との協力関係を構築する。

基本政策

1. 目指すべき社会像

“All for All”の理念のもと、すべての生活者の「尊厳ある生活保障」を実現する。

- 「格差是正」から「尊厳保障」、「品位ある命の保障」へ
- 「成長依存」から「成長誘導」へ
- 税の本質を「取られるもの」から「安心を得るもの」に変える
- 「公」「共」「私」が響きあう社会

2. 命を守る
防災・災害対策

3. 国際協調主義のもとでの
自由貿易推進

4. 現実的で抑制的な
安全保障政策

5. 立憲主義に立脚した
現実的な憲法論議

6. 2030年代
原発ゼロ目標に向けて

7. 身を切る改革による
政治の信頼回復

8. 躍動感のある党運営に
向けた党改革推進

略歴

1962年生まれ 京都大学法学部卒(国際政治 高坂正堯ゼミ)
松下政経塾第8期生、京都府議会議員選挙にて28歳で初当選
1993年 第40回衆議院議員総選挙初当選、連続8期当選
民主党代表、国土交通大臣、民主党政調会長、国家戦略担当大臣、海洋政策担当大臣、外務大臣、内閣府特命担当大臣等を歴任。現在、民進党尊厳ある生活保障総合調査会会長。

詳しい政策は「政見」をご覧ください

前原誠司 代表選 政見



私は、国民生活を守るため、安倍自民党の下で進んできた政治の流れを、一日でも早く反転させなければならないという、強い危機感を抱いています。そして、政権の担い手となりうるのは、民進党以外にないと確信しています。

政権の担い手となるには、個人の人気や一時のブームに頼るのではなく、幅広い国民の暮らしに寄り添う地域の基盤が不可欠です。地方自治体議員の皆さん、候補予定者の皆さん、党员-サポーターの皆さん、そして、それを支えてくれる支援者や応援団の皆さん。厳しい中でも旗を掲げて頑張っている皆さんこそが、民進党の宝です。私は、政権の担い手にふさわしい、さらに確固たる地域基盤を確立すべく、先頭に立ちます。

私たちは、自民党と明確に異なる、あるべき社会像を持っています。異なっているからこそ、政権の担い手となれます。第二自民党では、本物に勝てるはずがありません。民進党は何を目指しているのか、違いを鮮明にして、より明確な旗を高く掲げます。

私は、まだ53才ですが、危機に立ち向かい苦闘するリーダーを、何度となく、一番近くで支えてきました。その貴重な経験を、民進党にとって一番厳しい今こそ生かすことが責任であると決意し、初めての代表選挙に挑戦しました。

この代表選挙の目的は、安倍政権を倒すことです。安倍総理と本格的に闘う上で、私こそが最強の相手となりうるという自負をもって、全力で代表選挙に挑みます。そして、結果如何にかかわらず、皆さんと力を合わせて、民進党を前進させていく決意です。

日本のため、民進党のため、枝野幸男をご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

衆議院議員 **枝野幸男**

枝野幸男は

『多様性を認め合い、困ったときに寄り添い、お互いさまに支え合う。』そんな日本を目指します。

「認め合い、寄り添い、支え合う」社会のために

高く掲げる三つのポイント

1. 自己責任と自由競争を過度に煽る政治から脱却し、お互いさまに支え合う仕組みを取り戻します。医療や介護の充実、子どもたちの可能性が等しく保障される子育てや教育の支援、失業や貧困、障がいや難病などに苦しむ人の下支えを進めます。非正規雇用を減らし、過労死を招く長時間労働を厳しく規制します。可処分所得を押し上げ、雇用を増やし、消費不況から脱却させます。
2. 一日も早く原発ゼロを実現するため、最大限の努力をします。原発ゼロ法案をとりまとめ、年内にも国会提出することを目指します。「責任ある避難計画の策定」など、前提が満たされていない状況で、再稼働を認めることはできません。
3. 立憲主義を破壊し、専守防衛を逸脱した集団的自衛権の一部行使容認は認めません。これを前提とした憲法9条の改悪と、徹底して戦います。自由と民主主義、国民の人権と暮らしを守るために必要な憲法改定があるのか。知る権利、解散権制約、地方自治の3項目を中心に、引き続き検討を進めます。

さらに、私が一貫して取り組んできた次の課題も、民進党の明確な姿勢です。

- 徹底的な行政の透明化 - 情報公開法、公文書管理法、特定秘密保護法の見直し
- 多様性を認め合う - 女性や障がい者、性的マイノリティの実質的な権利保障

地域基盤確立のために、選挙に勝てる体制を作ります。

- ◆総選挙に向けた財政支援などを、最大限強化し、前倒しします。
- ◆統一地方選挙対策の専門部局を設け、地方組織と緊密に連携、支援します。
- ◆連合等の応援団と連携し、参議院選挙に向けた候補者擁立作業を進めます。
- ◆地方の声を、政策決定プロセスに反映させる体制を作ります。

他党との連携は、民進党の理念のもと政策の前進が前提です。そして、民進党の支持者や応援団の理解が不可欠。その範囲の中で、最大限の効果を上げることに努力します。



枝野 幸男 えだの ゆきお プロフィール

1964（昭和39）年生まれ、現在53歳。87年東北大学法学部卒業、91年弁護士登録、93年日本新党候補者公募合格、衆議院議員初当選、以後8期当選。内閣府特命担当大臣（行政刷新）、内閣官房長官、経済産業大臣、民主党幹事長、民進党幹事長などを歴任。

枝野ゆきお

重ねる経験 変わらぬ初心



薬害エイズで被害者に寄り添い、政府を鋭く追及、解決の突破口を開きました。

菅厚生大臣(当時)の謝罪会見に同席



官房長官として東日本大震災に立ち向いました。そして、原発ゼロを目指すことを決めました。

事業仕分けでムダ使いに切り込みました。

だからこそ、今先頭に立つ決意

■その他の政策等はホームページをご覧ください **HP** <http://www.edano.gr.jp>



Twitter @edanoyukio0531

facebook.com/edanoyukio/

代表選挙の有権者

- ① 党員またはサポーター
直近の定時登録名簿の中から代表選挙規則に定める要件を満たした者。
- ② 地方自治体議員党員および衆参公認候補予定者党員
8月2日の両院議員総会の時点で党籍を有する地方自治体議員、同時点で常任幹事会により決定または承認されている国政選挙の公認候補予定者。
- ③ 国会議員党員
8月2日の両院議員総会の時点で政党助成法にもとづき党に所属している者。

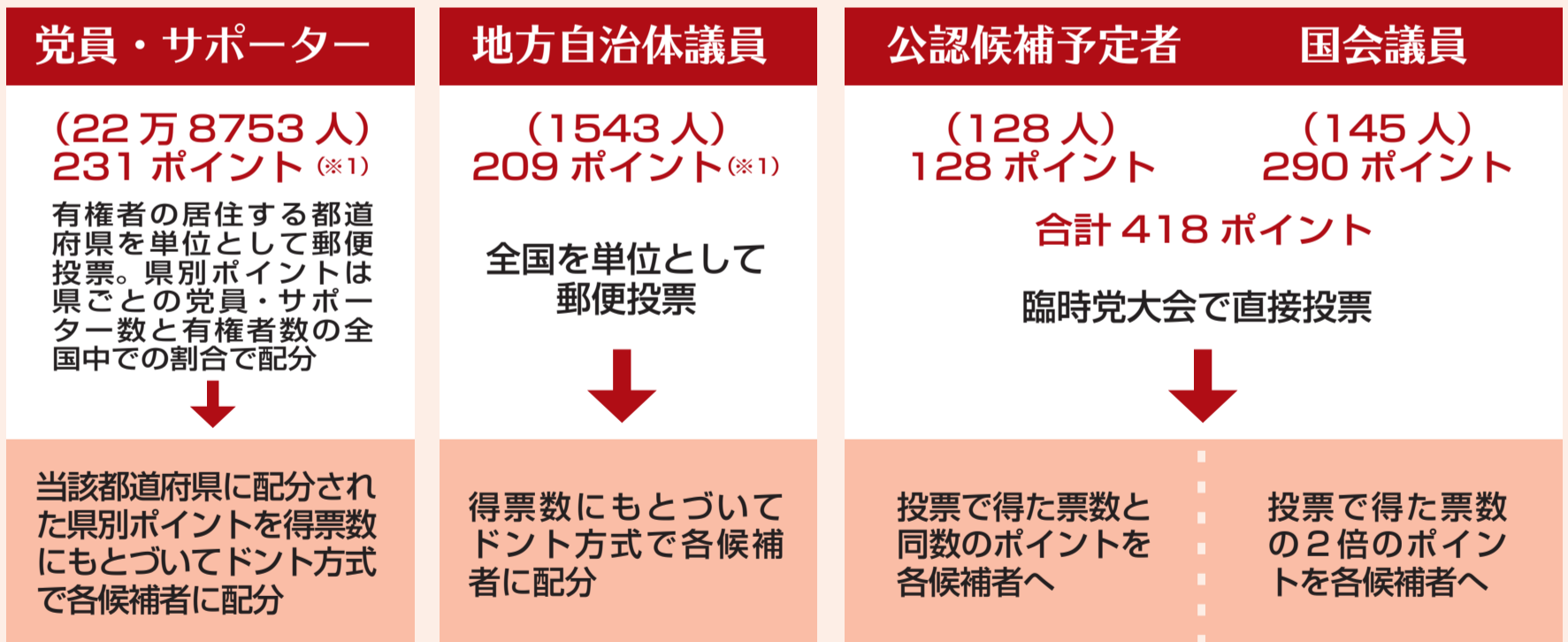
代表選挙の仕組み

例 候補者が2人で、割り当てポイントが7の県の場合のポイント配分

候補者	A	B
総得票数	1000	650
÷ 1	① 1000	② 650
÷ 2	③ 500	⑤ 325
÷ 3	④ 333.3	⑦ 216.7
÷ 4	⑥ 250	162.5
獲得ポイント	4	3

ドント方式とは
各候補の総得票数を1、2、3、...と整数で割っていき、得られた「商」の大きい順にポイントを分配する方式です。

投票の流れ



各ポイント数を集計して代表を決定

● 決選投票の場合、国会議員各2ポイント、公認候補予定者各1ポイントの直接投票をもって、その獲得ポイント数の多い候補者を当選者とする。立候補者が1人の場合、選挙は実施せず、臨時党大会に報告し、その承認をもって当選者を確定させる。

※1 (国会議員ポイント+公認候補予定者ポイント) × $\frac{1}{2}$

ただし、党員・サポーター分は都道府県別の有権者数および党員・サポーター数にもとづいて都道府県別の配分ポイントを出す際に切り上げ計算をするため、合計数は地方自治体議員への配分ポイントより多くなっている。